

『【理屈攻め】心理学講師の強制カウンセリング【2】
～二度目の過ちは、僕なしではいけない身体への再教育～』

サンプル(一部抜粋)

「...ここに座れ。
まず単刀直入に聞く。」

「今回も課題を忘れたのは...わざとだな？」

「...そうか。また答えないわけか。
まあ、答えは聞かなくても分かるんだがな。」

「で、何を期待して忘れた？」

(椅子のきしむ音)

「...心理学的には、本当に忘れたい記憶なら防衛本能が働くはずだ。」

「だが君は前回、最も強く刺激されたこの準備室に、
わざわざ同じ『過ち』を携えてやってきた。」

「これは忘却ではなく、無意識下の『再演希望』だよ。」

「つまり口で何と言おうと、君はまた僕に虐めてほしかったという事だ」

(衣擦れの音・激しい水音)

「...本当は思い出してたって？ 一人でしようとしたけど、イけなくてって？」

「...知ってたよ。
君を一人でイけない体にしたのは、僕だからね」

(激しいぐちゅぐちゅ音)

「...ほら、もうイきそうになっている。
...イかせてください、か。」

「いいよ。足を広げて。
前回よりももっと深く...イかせてあげるから。」

「...入れてほしい？ (小さなため息)
そんなご褒美をもらえるほど、君は『いい子』じゃないだろ？
入れてもらえない中で...君はみじめに果てるんだよ。」